平成２０年　第２回定例会一般質問

○議長　横尾　武志君

３番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員　３番　田島　憲道君

３番、田島でございます。おはようございます。まずは、先週末に海浜公園にて漁業、観光振興を目的に第１回水産祭り「あしや来てん祭」が開催されました。関係者の皆様、大変お疲れさまでした。予算の関係でＰＲ不足や目玉である「あしやんいか」がとれないにもかかわらず、近隣から多くの来場客がありました。継続して開催することで、人々の認知度も高まり、地域振興に大きな役割を果たすものです。今後も末永く開催されますことを祈念いたしております。

では、質問です。

この７月から町長みずから足を運ぶ出前町長室が開設されます。これには波多野町長の２年目の意気込みというものを強く感じ取ることができます。広く町民に施策を知っていただくには大変よいことだと思います。

そのテーマの７項目「町の元気づくり」という欄に「砂浜の美術展の早期再開」とあります。砂浜の美術展が休止となって３年たちました。行財政改革を進める中で、やむなく休止ということで３年たとうとしています。その当時８月末は周辺の地域イベントもなく、夏休み最後の思い出づくりということで、たくさんの人でにぎわいました。この１１年間に培った砂像制作の技術や大イベントをやるための数々のノウハウの蓄積、これを休止してしまうことに大変惜しむ声が多かったわけです。その砂浜の美術展の復活はあるのか、その実現の方向性をお尋ねいたします。

○議長　横尾　武志君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長　内海　猛年君

それでは、ただいまご質問がありました砂浜の美術展の再開ということについて、産業観光課の方からお答えをいたします。

今議員さんの方からお話ありましたように、砂浜の美術展は芦屋を代表する貴重な観光資源であります芦屋海岸にスポットを当てまして、自然をテーマにしたイベントとして平成７年から１７年までの約１１年間開催されております。その開催期間中には年間約１０万人ぐらいのお客さんが訪れ、大変にぎわっておりました。

しかし、財政改革によります補助金の見直しや砂像制作人員の確保が難しい状況の中から、平成１８年度より休止の状態となっております。砂浜の美術展の再開を望む声は大変よく聞きますが、財政状況の悪化や町職員の減によりまして行政による従来どおりの大規模な砂浜の美術展の

開催は大変難しいような状況と考えております。

担当課といたしましても、砂像をやりたい気持ちはありますが、財政上の問題もございますので、今後はスポンサーの確保や制作人員の確保などを図って、他のイベントとあわせての開催または規模を縮小するなど、そのような状況の中で砂像の再開に向けて努力してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長　横尾　武志君

田島議員。

○議員　３番　田島　憲道君

砂浜の美術展に一度訪れた人々は、必ずその壮大なスケールや精巧さに舌を巻き、感動は忘れないと言います。また、当時真夏の炎天下の折に砂像づくり、ボランティアで参加された人たちには大変頭が下がる思いでした。一度途絶えてしまったものを復活させることは大変なことだと思います。

芦屋釜を復興させたわけですが、今日まで大変な労力と経費がかかっております。サンドアートも同じことではないでしょうか。あのすばらしい技術は財産でありますから、子どもたちに伝えていかなければならないと思います。今現在、芦屋の砂像連盟がサポートをしておりますから、まだ安心しているとこでありますが、２回目の質問です。

先ほど答弁でお聞きしておりますが、前回の予算規模を拠出した補助金額、入場者数、ステージイベントや花火などいろいろやっておりますが、費用の内訳と決算状況、また、ボランティアで参加された方の延べ人数、そのうちの役場の人たちの割合を教えてください。

○議長　横尾　武志君

産業観光課長。

○産業観光課長　内海　猛年君

一部お答えできないのがありますが、直近の１７年の時点でお答えさせていただきます。

まず、総事業費が６，３５３万６，０００円、町補助金が約１，０００万円、入場料の収入が４，６２９万、そして、共催金等が６２１万、観客動員数は９万６，０００人、制作延べ人員は約１，５００人ということで、職員の延べ人員については今のところ把握しておりませんので、後日お答えしたいと思います。

それから、いろんなイベントの部分につきましても、情報的にはこちらに持っておりませんので、また後日、田島議員の方にお答えしたいと思っております。

以上です。

○議長　横尾　武志君

田島議員。

○議員　３番　田島　憲道君

大変な経費がかかっておるんですが、レーザーショーや花火などどうなんでしょうか、削れるとこは削って、見直すところは見直していただくということで、また、芦屋基地の協力や役場の方たちのマンパワーばかりに頼るのではなく、当時小中学生だった子どもたちは今立派に成長していますし、団塊の世代の方も落ちついて力をもてあましてるようですので、今までのメンバーでなく、新たにボランティアを募ることもできると思います。これは町長の言われる町民力、地域力、職員力の協働のまちづくりではないでしょうか。

砂浜の美術展は、芦屋釜と並び全国に広くＰＲできるものです。芦屋砂像連盟によれば、「イベントによる地域おこしで、地域に活力が生まれます。また、世界じゅうのサンドクラフトアーチストや全国各所の人的交流が盛んに行われている。」とのことです。行政と民間と業種を超えての連帯感や郷土愛の育成と波及効果は大変大きいと聞いております。

そして、町内の経済波及効果という面では、今冷え切った商工業者にとっては短期間なイベントではありますが、生活がかかってます。ありがたいお話ではないでしょうか、例えば、商工会を通して出店募集のある会場内での飲食ブースです。約２０店舗近くあります。全体でどれだけ売り上げがあったかは商工会から報告受けてありますでしょうか、お尋ねします。

○議長　横尾　武志君

産業観光課長。

○産業観光課長　内海　猛年君

今の時点では資料がございませんし、商工会の方からあったという部分については、この場ではお答えできませんので、申し訳ございません。後日確認させていただきます。

以上です。

○議長　横尾　武志君

田島議員。

○議員　３番　田島　憲道君

もちろん、それぞれのお店で出してるものがいろいろありますから、お店では違いがあると思いますが、私自身出店してまして、およその把握はしております。このイベントに町から出してる運営補助金分以上はあると思います。考え方の違いはあるでしょうが、これはむだにはなってないと思います。出店が出ることによって有田の陶器市やどこの縁日でもそうでしょうが、祭りのにぎやかさを演出し、盛り上げてくれます。また、よそと違うのは露天商に任せるのでなく、芦屋町商工会の会員限定で、これも立派な地域振興、商業振興の一つだと思います。

砂像の先進地、南さつま市で行われる吹上浜砂の祭典は、「砂でつくる夢と感動」と副題が打

ってあります。ことしで２１回目の開催ということで、かつての芦屋と同規模の祭典がこの５月のゴールデンウイーク中に行われました。１０万人超える人々でにぎわったそうです。当初は夏の暑い時期に開催していましたが、７月や８月の準備段階での長い梅雨や台風に苦しめられたそうです。これは全く芦屋と同じケースですね。今では気候のよい時期にあり、終日過ごしやすいイベントになっているそうです。吹上浜の関係者によれば、交通アクセスもロケーションも芦屋町より悪い環境にあるということです。芦屋の広大な響の海を背景に沈む夕日をバックにして、雄大にそびえる砂像群の美しさは、吹上浜の関係者がうらやむほどと聞いております。

そこで、吹上浜の祭典の実行委員会と芦屋町の実行委員会とでは運営上の何が、どういったところが違うのか、ご存じであれば教えてください。

○議長　横尾　武志君

産業観光課長。

○産業観光課長　内海　猛年君

今、南さつま市の旧加世田の砂浜の祭典ですけれど、開催されまして２１回をむかえております。大きな違いといいますのは背後地といいますか、市という一つのとらえ方の中で協賛金ですか、これが大変違います。

まず、古い資料で申しわけないんですが、平成１５年の資料をこちら出しておりますけども、芦屋町での協賛金は約４００万、加世田市といいますか、南さつま市の協賛金が約２，４００万、この時点で約２，０００万ほどの協賛額が違っております。

それから、入場料につきましてはほぼ同額です。約２，９００万から３，０００万。

そして、町の補助金といいますか、平成１５年の時点では、芦屋町としては２，５００万トータル、加世田市の方では約７００万ということで、一番大きな違いというのは協賛金の収益が違うといった中で、町の持ち出しといいますか、市の持ち出しの方が当然少なくなってるというのが一番大きな状況です。

あと砂像の制作に当たりましては、向こうはどちらかといいますと、地域を挙げてということの中で、地域ボランティア、一般の市民の方々の参画が大変多くございます。先ほど言われましたように、芦屋町の場合はどちらかといいますと、町の職員に頼る部分が大変多いものですから、職員の数が削減された中ではなかなかそれも厳しいというような状況になっております。

以上です。

○議長　横尾　武志君

田島議員。

○議員　３番　田島　憲道君

この３年余り町内イベント等で、芦屋の砂像連盟がつくる小規模のモニュメントを見てきまし

た。すばらしいと思うんですが、やはりたくさんの方が当初の規模で、盛大に行われたメーン砂像を心待ちにしておるんです。ここは波多野町長の時代ということで、今までとは違った進め方で、例えば、民間ボランティア育成の強化や大手企業のメインスポンサー枠の拡充、札幌雪祭りは企業が各雪像を買い取るという方式だそうです。

そして、多くの協賛を得ながらこれまでどおりの規模で早期再開されますことが望ましいのでありますが、規模を縮小してでも、ぜひ商業振興、観光振興、郷土愛の育成という大義名分のもと早急に再開していただけると思っております。

最後に、町長一言よろしくお願いいたします。

○議長　横尾　武志君

町長。

○町長　波多野茂丸君

先ほど来より田島議員、そして、所管の課長の方からいろんな形で説明があったわけでございます。とにかく問題は財政の問題であったわけでございますが、同時に二つ、花火大会と砂像がなくなりました。やはり歴史ある町の中で二つの大きなイベント、砂像は１１年ですが、非常に住民の方は寂しい思いをされましたので、とにかく花火を再開させました。この砂像、砂浜の美術展につきましては、先ほど来よりお話があっておりますように二つのうち一つであったらどうにか努力を傾けるという形の中でできるんですが、財政の問題、お金の問題と人の問題と、二つあわせ持っておりまして、先ほど来より課長が申しておりますように、今まで１１年間砂像をやったわけでございますが、大半が町職員が中心となってやっておったという現実があるわけでございます。

ちなみに、平成７年から始めたわけでございますが、先ほども申しましたように行革によって町職員どのくらい減ったかという数値でございますが、平成１０年、３６３名の町職員がおりました。平成２０年には２５１人、１１２名の職員が減っておるわけでございます。今、昨今のいわゆる国のいわゆる後期高齢者問題、いわゆる介護問題、また、年金問題、いろんな形で国の方がもめております。

そして、法律もどんどん変わって、そして、県の方からいきなり「変わりました。」と、今職員は本当に大変な思いをしており、変わるたんびにシステムを変えなくてはいけない。残業も、無事終わりましても、帰りは６時をすぎております。朝も早くから出て来ております。今現在、人の問題を考えたときにこのイベントに力を注ぐという余力というのが私は今現在ないのではないかと思います。

今、田島議員が申されましたように、これはボランティア、職員に頼らず、町民の皆さん方のお力をお借りして進めなければいけないイベントであり、そうしかできない。そうした場合に町

民の方々のじゃそれを集約する今システムができておるのかというと、できておりません。問題になっております自治区加入率の問題もそこに波及してくるわけであります。いろんなもろもろの総合的に判断いたしまして、これはぜひ私自身もやらなければならないイベントだと位置づけておるんですが、もろもろのそういうような事情の中で、やりたいということとやれるということがちょっと違うということですね。その辺の総合的に難しい問題が山積みにしておるわけでございます。

私自身もマニフェストにのせております。そして、このマニフェストというのが選挙の公約でありますので、私の選挙の公約を今度は町の計画にのせなくちゃいけない。町の計画にのせるときには総合的に所管と話し合いをしなければいけない。その中で、実施計画に具体的に検討するように指示はいたしたわけでございますが、今私が前段でお話、ご説明申し上げましたように、町長とても無理ですよ、今のいわゆる財政問題はもちろんですが、人的な問題で、とても今の段階ですぐ、すぐというのは二、三年のうちに実現というのは少し無理ですよというような内部協議でございます。

しかしながら、いろんな形の中で一つ一つ解決して、砂像の再開については、今ほかの問題が山積みしておりますので、今すぐ力を注ぐことはありませんが、近い将来ということは必ず遣り遂げたいなと私自身思っております。

以上でございます。

○議長　横尾　武志君

田島議員。

○議員　３番　田島　憲道君

ありがとうございました。近い将来再開されますことを祈念して、砂上の楼閣とならないようにぜひよろしくお願いいたします。

私の質問を終わらせていただきます。

○議長　横尾　武志君

以上で田島議員の一般質問は終わりました。